

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 5	福山市立川口小学校
最終更新日		2026年(令和8年)3月25日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の主体性や多様性を表現する場が設定されており、教職員のサポートが適切に行われている。 生徒自身が考え、決めて、選ぶことを大切にしていることが伝わる。 学校と家庭、地域とのつながりに課題がある。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多くの児童生徒に定着している。 知識、技能の定着に課題がある。 授業への姿勢や、家庭での過ごし方など、学習基盤になる部分の改善が求められる。 	<p>育成する 資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識する力 自分の人生を選択する力 表現する力
		<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が打ち込めることを見つけ、目標に向かって一生懸命取り組む児童生徒の育成 地域から学び、社会に貢献する児童生徒の育成
		<p>中学校区として 統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。 総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。

育成する 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 自らを見つめる力 自己決定する力 表現する力
めざす 子ども像	<p>自分自身をよく見つめ、考え、判断し、その思いや考えを豊かに表現できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考え、行動を振り返り、良さや課題に気づくことができる。 周囲の意見や情報をもとにしながら、自分で考えて選択・判断することができる。 自分の考えや気持ちを、言葉や態度様々な方法で分かりやすく伝えることができる。 <p>また、他者の考えを受け止め、対話を通してよりよい考えを生み出すことができる。</p>

III 自校

学校教育目標
つなぐ～支え合い・認め合い・高め合い～

現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着いており、どの学級でも落ち着いて学習できる環境が整っている。 ○国語科においては、全国平均並みの学力が身についている。 ○特別活動を中心とした集団づくりに取り組んだ結果、児童主体に学校行事や児童会活動が行われている。 ●算数科の学力が低い。特に新5年生は、市平均を大きく下回っている。 ●SNSトラブルが多く、保護者とも連携しながら取組をすすめているが、後を絶たない。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科の研究に長年取り組んでおり、学校全体でフレームリーディングを中心とした授業づくりが進んでいる。 ○教材研究の時間をとっていないが、放課後学年団で授業づくりに向けた学年会が自然と行われている。 ●経験年数が少ない教員が多いため、授業の進め方や抑えるポイントを学校全体で共有する必要がある。 ●家庭学習と授業の関連を整理する必要がある。

研究	<p>テーマ</p> <p>自ら学びをつなぐ児童の育成～自己調整力を育む授業づくり～</p> <p>内容等</p> <p>児童自身が「教材と自分」「仲間と自分」「学習したことを次の学びへ」つなぎながら、予見・遂行・自己省察をくりかえすことで主体的な学びにつなげていく。</p>
めざす授業の姿	<ol style="list-style-type: none"> 教材とこれまでの学びをつなぐ これまで学んだこと(知識・技能)を総動員し、解決に向けて考える姿を引き出す 仲間と自分の考えをつなぐ 自分の考えや集団としての学びを深める姿を引き出す 学習した見方・考え方を次の学びにつなぐ 仲間とよさを分かち合い、自ら次の学びにつなぐ姿を引き出す

福山市立川口小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
3	自ら学び をつなぐ 児童の育 成	★	継続	児童の自 己調整力 の育成	○児童の実態に合わせた授業づくりや授業 改善を行う。 ・予習型授業の実施 ・次の学習へつなぐためのふりかえり(児 童) ・個々の学びの分析(教師)	・児童アンケートに おいて、「自分にあ った学び方を見つ けたり、次への目標 を考えたりするこ とができた。」肯定的 回答80%以上。								
3	自ら学び をつなぐ 児童の育 成	★	継続	互いを思い やることが できる児童 の育成	○教師と子ども、子ども同士が肯定的な評価 を行うことで価値の共有を図り、集団の心 理的安全性を高める。 ・生活や授業内における教師の肯定的評 価の充実 ・キラキラタイム(いいところ見つけ)による 子ども同士の肯定的評価の場の改善	・児童アンケートに おいて、「友だちの よいところを見つけ たり、伝えたりして いる。」肯定的回答 80%以上 ・動画等による児童 の姿の見取り(定 性評価)								
3	自ら学び をつなぐ 児童の育 成	★	継続	地域を誇り に思え る児童の育 成	○教科やクラブ活動など様々な場面で地域 と関わる機会を設けることを通して、地域と 関わることのよさを実感できるようにする。 ・川口ふれあいサロン ・クラブ活動 ・総合的な学習の時間 ・老人会 ・民生委員 ・まちづくり推進委員会	・児童アンケートに おいて、「川口のよ さを感じることが できる」と回答する 児童の割合を70% 以上にする。								
4	教育公務 員としての 専門性及 び規範意 識をもった 教職員		継続	仕事にやり がいもち 主体的に 業務に取り 組む教職 員の育成	○教職員が支え合う協働体制づくり ・教科担任制の拡充 ・教科部会等、交流の場の設定 ○業務の見直しによる負担軽減 ○教職員の主体性を生かす学校運営	・教職員アンケート において「やりが い」を感じるこ とができたと回答する 教職員の割合を9 0%以上にする。								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。